

日本学術会議 化学委員会

物理化学・生物物理化学分科会（第 25 期・第 4 回）議事録

日時：2022 年 3 月 8 日（火）、10 時 00 分～11 時 00 分

会場：遠隔会議

出席者 19 名：相田 美砂子、阿波賀 邦夫、石谷 治、岡本 裕巳、腰原 伸也、神取 秀樹、栗原 和枝、黒田 玲子、小林 昭子、所 裕子、内藤俊雄、中嶋 敦、西川 恵子、細越 裕子、三澤 弘明、村越 敬、森 初果、山内 薫、山内 美穂

欠席者 3 名：岩澤 康裕、川合 眞紀、福村 裕史、山本 達之

【議事】

1. 第 3 回委員会の議事録の確認

岡本委員長より第 3 回委員会の議事録（日本学術会議に提出済）の提示があり、前回会議の議事録が確認された。

2. 3 月 8 日午後のシンポジウム(ALFA 計画の現状と展望)の概略紹介

岡本委員長から、分子科学研究所と日本学術会議の共同主催で行われる「アト秒レーザー科学研究施設(ALFA)の現状と展望」のシンポジウムの概略を説明があった。

3. 第 25 期における分科会の今後の活動方針・計画

(1) 地方にある大学の活性化についての進捗報告

相田委員から、「地方にある大学の活性化」に関する提言を纏めるための準備状況について説明があった。日本の科学技術の地盤沈下を解消するために、若手の活躍機会形成および地方連携の必要性が共通の認識として各所で芽生えている。相田委員からは、他の分科会等と良好な連携関係を構築するために、本分科会から提言の骨子を早急に固めるとともに、科学的助言等対応委員会のメンバーとしても提言発出に向けた活動に取り組む予定であるとの説明があった。

(2) 日本学術会議におけるカーボンニュートラル連携についての動向報告

山内（美）委員から、会議は開催されていないが、カーボンニュートラルに関する研究会やシンポジウムが企画されていることを報告された。

(3) 今期以降の取り組みについての意見交換

森委員から、科学技術における分野間連携の重要性についての意見が述べられた。また、岡本委員長から、日本の科学の閉塞感打破に向けた方策として、分野間融合を効果的に進める方策という議論の方向性が示された。この議題については今後の委員会で議論を深めることとなった。

4. その他

岡本委員長から、次期の学術会議会員候補者の選考方法についての議論内容が説明された。

以上。